

CROI 2017 参加報告書

自治医科大学臨床感染症センター感染症科
外島正樹

今回 CROI 2017 に参加し、大変有意義で勉強になりました。昨年 12 月に参加を決めたものの、CROI ホームページでの **Registration and Housing** に手間取り、**attendance** が認められただけでちょっとした達成感を味わってしまいました。もちろん、会議ではさらに大きい達成感と成果が得られましたが。

直前に発表された IAS-USA の（渡航制限に強く反対という）**statement** に励まされ、トランプ旋風吹き荒れるシアトルに向かったのです。

2 月 12 日にシアトル到着、13 日朝から初学者のためのワークショップに出席いたしました。これがとても内容が濃く、会全体のオーバービューになり、大変役に立ちました。

Dr. Bieniaz の新薬の話、Dr. Koup の cross Mab technology、Dr. McIntyre の予防の話（90-90-90、self test の流れ、PrEP）、Dr. Currier の合併症の話、Dr. Chomont のリザーバーの話（早期 ART がリザーバーを減らす）はとても参考になりました。

午後は HCV のワークショップに出席、肝線維化の検査法、薬の相互作用を聞きました。Dr. Bhagani の肝硬変の話では、いくら治療薬が進化してもやっぱり肝移植は必要と、認識を新たにいたしました。

Opening session ではあらためて Dr. Buchbinder から The International Antiviral Society-USA (IAS-USA) and Conference on Retroviruses and Opportunistic Infections (CROI 2017) strongly oppose arbitrary travel restrictions based solely on religion or national origin.とアナウンスがあり、さすがアメリカ、と思いました。

翌日以降テーマを絞り、まずは疫学、PrEP、新薬、CNS 異常そしてその他の性感染症（特に梅毒）について見聞きいたしました。



Fig.1 やっとこれた！
CROI 2017

2 月 14 日午前はオーラルセッション（O-3）**Hiding in plain sight** で CDC からの報告、新規アメリカでの HIV 患者数の減少はあるが MSM では増加とのことで、フロアから多数の質問が出ていました。

午後はテーマ別討論（TD-5）**PrEP without borders** で、どうやって PrEP を広げるかの議論がとても興味深く、地域の薬局を活用したプロ

グラム、メールを使ったプログラムなど参考になりました。日本でも東京オリンピックに伴う外国人観光客の増加に対し、PrEP ができる病院をどのように配置するかなど検討課題です。

午後もう一つ、STI のシンポジウム (S-3) で、今回の key word である vaginal microbiome について知りました。今後の PrEP 戦略にどうかかわるか、目が離せない分野です。Dr.Molina の STI に対するドキシサイクリンによる予防 (56) はとても面白く、たくさん質問がありました。

2月15日は朝から雨でしたがオーラル (O-8) でスタート、PrEP のセッション。新規薬剤の cabotegravir の PrEP での薬剤耐性の話 (84)、vaginal TDF gel 使用時に膣内の Lactobacilli が少ないと血清中の TDF 濃度が上がらない話 (86)、penis の microbiome、そしてまた STI に対するドキシサイクリンによる PEP (91) の議論がありました。今後日本でも検討がなされるべきです。

午後は CNS treatment のテーマ別討論 (TD-7)。認知の異常は聞けば聞くほど何が根本問題なのか、何が影響しているのか、まだわかりません。この分野はもう少し様子見です。

最後に 90-90-90 のシンポジウム (S-7)。南アフリカでは 60-46-38 という報告がありました。やはり日本は実は一番 90-90-90 を達成しやすい国かもしれません。

ポスターではもちろん新薬、DTG monotherapy、DTG+RPV、DTG の薬剤耐性、PrEP で耐性のない HIV 感染の症例報告、感染初期の母乳にはウイルス量が多い (765)、神経梅毒の症状で多いのは視覚障害と聴力障害 (749)、神経梅毒の治療に筋注ペニシリン+プロベネシド (750)、10年以上 ART の効果があるが CNS の炎症や認知障害が続く (340、343、349、362)、認知と単球の活性化の関係 (341)、血清 ST2 値と mortality (630) など興味深かったです。日本人参加者の活躍も頼もしく、JAPAN original な発表も期待されます。

2月16日は朝のセッションに出るつもりが間に合いませんでした。時差ボケですね。そのまま帰国準備に入り、



Fig.2 2月15日、雨のシアトル
ワシントンステートコンベンションセンターより

無事日本に戻りました。

今回、自身の演題発表はなく、ゆったりした気分で勉強させていただきました。しかしどの発表もとてもレベルが高く、各施設の取り組みも人種、国、宗教を超えて熱心であり、次回はぜひ演者として出席したいと強く思いました。



Fig. 3 2月13日
九州医療センターの大石先生（中央）
新潟大学の田邊先生（右）とランチ。